

第2回

令和4年11月6日（日）

学生のための教師未来塾



実りの秋に、実りのある学びを！

73名の将来教職を目指す精鋭の皆さんが集まり、第2回「学生のための教師未来塾」が11月6日に行われました。学生の皆さんにとって、熱心に講話を聞いたり、積極的に模擬授業や演習に取り組んだりすることで、大変充実した研修となりました。

研修の内容や、実際に受講した皆さんの感想を紹介します！

1 講話・演習 「学力向上について」



「全国学力・学習状況調査」の分析と活用を考えるために、実際に問題を解いてみたり、問題から「どのような学力を育むことが求められているのか」ということをグループで協議したりしました。また、千葉県の子供たちの学力の実態や、学力向上のための「実践モデルプログラムと授業改善」について、講師の先生から講話をしていただきました。

学力向上について、千葉県と全国の違いを知り、千葉県より高い結果が出ている他県の取り組みを知りたいと思った。

「学力向上について」の講話で学んだ千葉県の実践モデルプログラムを授業計画の中に取り入れて活用していきたいと思った。

三つの柱に分類される学力が、問題に表れていることを実感したため、これからも、問題の意図や狙いを考えていきたいと思った。



2 講話・演習 「授業づくり（教材研究と問い）」



「教材研究」についての研修は、道徳の模擬授業を体験し、その模擬授業のためにどのような教材研究が行われたのかを知ることとおして、教材研究の実際について学びました。「問い」については、学習問題（課題）と発問について、「どのような学習問題（課題）・発問が子供たちの思考を促すことができるのか」ということをグループ演習をおして学びました。

授業作りや、教材研究がなぜ大事で、どのように進めていけばよいかを学ぶことができたため、授業を作る際に参考にしていきたいと思った。

「略案ノートづくり」はとても勉強になった。ノートを1冊買って略案ノートとして使いたいと思う。

子どもが自ら考え、学習していこうとするための授業づくりの必要性を感じた。学習問題は子どもが学びたいと思えるようなものにすること、発問はその時の場面に応じて工夫し選んでいくことが重要だと学んだ。

